

# Culib News

(クリブニュース)

第28号

2001年4月2日

中京大学図書館発行

## 映画雑感

中京大学図書館長 長谷川 端

最近、名古屋市内の小さな映画館で、山田洋次監督作品「十五才 学校Ⅳ」を観ました。中学生の登校拒否、老人介護問題、第二次世界大戦の後遺症ないしはシベリアでの捕虜としての強制労働など、多くの問題が含まれている映画も、やはり山田監督の作品だけあって、生きていくこととは何かを考えさせる楽しい作品になっている。映画館を出た人々の多くは感動で半分泣き顔になっていたのが印象的だった。

横浜郊外に、三十年ほど前から最近まで続々と造成された一大住宅地、ラストシーン近くに出てくるモノレールが走っている街に住む中学三年生の川島大介は学校へ行かなくなって半年になる。ある日、彼は、「冒険に出る」と、書き置きを残し、かつて社会科の教科書で見た屋久島の縄文杉を目指して旅に出る。ヒッチハイクで出会った運転手に大阪まで連れていってもらい、そこから宮崎まで帰るトラックを運転する女性の世話になり、彼女の家で、息子である引き籠りの浪人生と出会い、そこに母親の想像も出来なかった心の交流が生まれていた。青年は、家族（離婚した母親、女子中学生とほけている祖母）の誰とも話さず、二千枚のジグソーパズルにしか興味を示さなくなってしまっていたが、その原因がどうやら母親の離婚にあるらしい事がわかる。彼は父親に会いたいけれども、トラック運転手として一家を支えていてくれる母親に気の毒だから会わないのだと、少年大介に話した。翌朝、宮崎港から船に乗る少年を追って、青年は自分が大切にしている帆船のジグソーパズルを贈るために母親の車を追って懸命に走る姿が印象的だ。パズルの裏には、少年大介へ贈る自作の詩が書かれていた。自分を「日向国浪人」と書く引き籠りの青年の、個性ある生き方を宣言する言葉がそこにあった。

何で学校に行かなくちゃいけないんだ。明るくて、素直で賢くて、親のいうことを良く聞く、そんな子だけがいい子なのか。大人は僕たちに、あれをしろ、これをしろという。それなのに、あれをしてはいけない、これもしてはいけないという。——少年の心の叫びは自分とは何かを求めている少年・少女全体に通じるものだというところ、スクリーンを通して観客は受けとる。少年の縄文杉への十時間をかけてのつらい旅は、そのまま彼の成長の物語である。だから縄文杉の山から下山する途中で遭難しかかることは、彼が一人前になる——自分で考え、行動し、責任をとる——ために必要なステップだったのであり、宮の浦の町で出会った一人暮らしの老人——「シベリアの鉄」という異名を持つ——との心の触れあい、観客は温かさを感じ、ともすれば現今の我々日本人が忘れかけているものに目覚めるのである。

寅さん映画を製作し続けてきた山田洋次監督の作品だから、確かに寅さん映画と通底するものは流れている。しかし、この、「十五才 学校Ⅳ」は、もっともっと現実の日本に肉迫し、少年の旅を通じて、日本人全体の幸せを追求している映画なのだと思う。

.....  
Culib は Chukyo University Library の略です。クリブと読んで下さい。  
.....

## 新着図書セレクト

\*\*\*\*\*

007/Tb 72	『どうなる日本の IT 革命』(土志田 征一・日本経済研究センター編 日経新聞社)
010.1/N 71	『表現の自由と「図書館の自由」』(日本図書館協会)
031/I 85	『ものごとのしくみ事典』(磯部 光雄著 日本実業出版社)
145.9/D 83	『続「甘え」の構造』(土居 健郎著 弘文堂)
146.1/Mu 54	『醜い感情の心理』(村尾 康弘著 大日本図書)
146.8/Ka 93	『人の心はどこまでわかるか』(河合 隼雄著 講談社+α新書)
161/Ki 7	『諸宗教の倫理学(1. 3. 4. 5巻)』(M. クレッカー〔ほか〕編 九州大学出版会)
190/Ko82	『キリスト教2000年の謎』(小坂井 澄著 講談社+α新書)
209.7/Y 81	『20世紀はどんな時代だったのか』(読売新聞社編 読売新聞社)
210.42/O 57	『時頼と時宗』(奥富 敬之著 日本放送出版協会)
210.43/D 85	『決断 蒙古襲来と北条時宗』(童門 冬二著 日本放送出版協会)
210.48/F 93	『異聞関ヶ原合戦』(古川 薫著 文藝春秋)
210.58/Mi 71	『明治維新の人物像』(宮地 正人〔ほか〕編 吉川引文館)
210.5933/Mi 71	『日本とイギリス』(宮永 孝著 山川出版社)
220/P 21	『西洋の支配とアジア』(K. M. パニッカル著 左 久梓訳 藤原書店)
227.81/O 41	『サウジアラビア現代史』(岡倉 徹志著 文藝春秋)
253.0033/Sa 25	『アメリカを知る事典』(斎藤 眞〔ほか〕監修 平凡社)
302.1/N 84	『なぜ日本人は日本を愛せないのか』(カレル・ヴァン・ウォルフレン著 毎日新聞社)
302.33/Ka 74	『イギリス 衰亡しない伝統国家』(加藤 英明著 講談社+α新書)
311.8/La 33	『ファシズムを超えて』(H.J.ラスキ著 早稲田大学出版部)
316.1/A 45	『癒されぬ傷跡』(アムネスティー・インターナショナル著 現代人文社)
338/A 42	『金融用語の基礎知識』(あさひ銀総合研究所編著 ダイヤモンド社)
338.1/Mi 27	『デリバティブとは何か』(マートン・ミラー著 東洋経済新報社)
338.98/Tr 4	『国際決済銀行の戦争責任』(ジャン・トレップ著 日本経済評論社)
366/Ta 56	『レイパー・デバイド(中流崩壊)』(高山 与志子著 日本経済新聞社)
370.4/W 12	『学力再建』(和田 秀樹著 PHP研究所)
407/A 72	『研究者』(有馬 朗人監修 東京図書)
457.8/O 63	『進化の大爆発』(大森 昌衛著 新日本出版社)
460.49/Y 53	『生命の不思議』(柳澤 桂子著 日本放送出版協会)
519.5/H 32	『環境アセスメント基本用語事典』(原科 幸彦 横田勇監修 オーム社)
548.29/Y 16	『パソコン 壁にぶつかったら読む本』(矢矧 晴一郎著 日本実業出版社)
572.1/H 72	『燃料電池が世界を変える』(広瀬 隆著 日本放送出版協会)
595.6/Y 96	『エクササイズダイエット』(湯浅 景元著 PHP研究所)
673.7/O42	『ユニクロ方式』(岡本 広夫著 ぱる出版)
763.9/Ta 67	『テルミン』(竹内 正実著 岳陽舎)
821.2/Ka 58	『似て非なる漢字の辞典』(加藤 喜光著 東京堂出版)
913.6/I 35	『花を運ぶ妹』(池澤 夏樹著 文藝春秋)
913.6/I 56	『ピカレスク 太宰治伝』(猪瀬 直樹著 小学館)
913.6/Ta 33	『時宗 巻の巻〜四』(高橋 克彦著 日本放送出版協会)

# 中京大学図書館とその利用について

## (図書館の配置)

本学には、名古屋学舎に三館、豊田学舎に一館、全体で四つの図書館があります。名古屋学舎の1号館に本館としての名古屋図書館(略称 NL)、センタービル3・4階にライブラリーサービスセンター(略称 LSC)、法学部9号館に法学文献センター(略称 LLC)、そして、豊田学舎の10号館に豊田図書館(略称 TL)が設置されています。蔵書数は全体で約110万部です。LSC(蔵書数5万)は全面開架ですが、NLは閉架図書が中心です。全体では、閉架図書が全蔵書の80%以上を占めています。

## (図書の検索について)

多くの蔵書の中から自分の必要とする図書を見つけるためには、目録が必要になります。従来はカード形式や冊子体の目録が使用されてきましたが、電算化が進んだ今日、図書検索の主役はOPACといわれるコンピュータ目録になってきました。各図書館には図書検索用のコンピュータが設置されています。皆さんが図書館を利用する場合には、コンピュータによる検索が不可欠です。従って、図書館が実施するガイダンスを利用していただくとともに、わからないことが起こった場合には、図書館員に気軽にお尋ね下さい。

### (OPACとは)

Online Public Access Catalog の略です。オンラインによるコンピュータの端末で検索する目録のデータベースのことです。

## (配架場所の表示について)

図書検索用の端末を使用していると、下記のような配架場所の表示が出てきます。代表的な配架場所の表示について簡潔に内容をお示しいたします。

名古屋・閉架書庫	: 名古屋図書館(1号館)の閉架書庫
名古屋・レファレンス室	: 名古屋図書館(1号館)の開架閲覧室
名古屋・LSC	: ライブラリーサービスセンター(センタービル)の開架閲覧室
名古屋・LLOPEN	: 法学文献センター(9号館)の開架閲覧室
名古屋・LLMAIN	: 法学文献センター(9号館)閉架書庫
豊田・開架室	: 豊田図書館(10号館)開架閲覧室
豊田・閉架書庫	: 豊田図書館(10号館)閉架書庫
豊田・レファレンス	: 豊田図書館(10号館)開架閲覧室

\* 指定図書はライブラリーサービスセンター、法学文献センター、豊田図書館の開架閲覧室にコーナーを設置しています。また、新着雑誌はライブラリーサービスセンターのブラウジング(3F)と雑誌コーナー(4F)、豊田図書館のレファレンス室とブラウジングに配架しています。

## 利用証について

図書の帯出や新聞・雑誌のバックナンバーの閲覧等の際には、図書館の利用証が必要です。学部学生は学生証がそのまま利用証となります。大学院生は図書館のカウンターで利用登録申請後、学生証を利用証として使用できます。その他の方は利用登録をして利用証の交付を受けて下さい。研究生・科目等履修生・放送大学の学生は学生証、オープンカレッジの学生は会員証、学外の方は運転免許証等、身分を証明するものがあれば簡単に作成できますので、カウンターへお申し出下さい。

## 返却日を厳守しましょう

貸出図書の返却期限を守って下さい。一日でも返却期限を過ぎている貸出図書があると、新たに他の図書を借りることが出来ません。また、卒業される方は、卒業式までに返却されないと卒業証書が交付されないことがありますのでご注意ください。

## 利用上の注意事項を守りましょう

図書館利用においては、次の事項を守って下さい。

1. 図書館の資料は大切に扱って下さい。
2. 貸出図書のリターン期限を厳守して下さい。
3. 館内では静粛にし、大声での談笑はしないで下さい。  
携帯電話の使用は禁止です。
4. 館内での飲食は禁止です。
5. 本や荷物による長時間の場所取りはしないで下さい。
6. 他の利用者の迷惑となる行為をしないで下さい。

## 平成13年度図書館カレンダー

	日 月 火 水 木 金 土	日 月 火 水 木 金 土	日 月 火 水 木 金 土	日 月 火 水 木 金 土
4	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30	5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31	6 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30	7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31
8	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31	9 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30	10 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31	11 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30
12	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31	1 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31	2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28	3 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31

■ は休館日です。

■ は開館時間短縮です。(9時～16時)

- \* 1月22日(火)から4月の前期開講までの期間は、平日は9時～17時まで、土曜日は9時～12時30分までの開館となります。

## 通常の開館時間

図書館名	平日	土曜日
名古屋図書館 (NL)	9:00～18:00	9:00～12:30
ライブラリーサービスセンター (LSC)	9:00～20:00	9:00～17:00
法学文献センター (LL)	9:00～17:00	9:00～12:30
豊田図書館 (TL)	9:00～18:00	9:00～17:00